

各職員に転送または、配布をお願いします。

---

目次

[ 最新情報 ]

自治体学会・鳥取大会 8月24日 - 25日  
サマータイム法

[ 募集します! ]

e シンキング投稿募集  
すてっぷあっぷ講座 8月12日(金)開催

[ 政策研究の紹介 ]

政策課題共同研究が始まりました。

[ 私の選んだこの1冊 ]

ニート：フリーターでもなく失業者でもなく  
玄田有史、曲沼美恵 著 / 幻冬舎

[ みてきたゾウ・つたえるゾウ!! ]

第100回研修管理研究会(財団法人公務研修協議会主催・人事院後援)  
国際フォーラム「日本の進むべき道」(日本21世紀ビジョン発表記念)

---

[ 最新情報 ]

自治体学会・鳥取大会 8月24日 - 25日

全国で地域政策の実践や研究に携わる市民・自治体関係者・研究者が情報交流する場として、自治体学会の全国大会が鳥取市内において開催されます。

片山鳥取県知事の講演他、分科会等が開かれます。

8月24日(水) 鳥取県立県民文化会館

8月25日(木) 鳥取環境大学

[http://wwwsoc.nii.ac.jp/jigaku/new.files/taikaiannai\(19\)\(H17.7.1\).htm](http://wwwsoc.nii.ac.jp/jigaku/new.files/taikaiannai(19)(H17.7.1).htm)

サマータイム法

超党派の国会議員で構成された「サマータイム制度推進議連（平沼赳夫会長）」により、「サマータイム法案」を今国会に提出することが検討されています。

案としては、4月の最初の日曜日から10月の最後の日曜日までの間、時計を標準時より1時間進めるものとなっています。導入されることになれば2年後の平成19年から実施される見通しです。これにより、電力の節約や二酸化炭素の削減効果が見込まれるほか、生活リズムが1時間早くなることで夕方の明るい時間が有効活用でき、生活にゆとりが生まれるとされています。

政府の発表によれば、同制度は既に世界で70か国以上が導入しており、特にOECD加盟29か国の中では日本、韓国、アイスランドの3か国のみが未導入だそうです。導入による省エネ効果は、原油換算で約50万キロリットルといわれ、全国の世帯の約1か月分の照明需要に相当するとも言われています。

札幌市では昨年7月1日から1か月間、サマータイムを実施。220の企業や団体、およそ6000人が参加しました。今年度は、6月20日から42日間、札幌市以外の5市町や北海道庁も新たに加わり、昨年の2倍以上の約470の企業と団体、計1万2000人の参加となるそうです。

大きな期待がされているサマータイムですが、生活リズムの乱れ、労働時間の増加、コンピュータ等のシステム変更等の問題も指摘されています。実際に戦後の復興期に導入されたこともありますが、同様の理由で廃止された経緯もあります。

今年度は、環境省の提唱で、クールビズばやりです。クールビズにも言えることですが、何を優先し何を切り捨てるかを考えることが必要なのかもしれませんが。ちなみに、地球温暖化防止のための国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」のWebPageでは、フラッシュという手法が使われ、表示に時間は掛かりますが、見栄えは良いものとなっています。これは、そこでの省エネよりも運動の拡大を重視したものかと思われます。

サマータイムも、その効果だけでなく、副作用も考慮しながら、大きな目的を達成するのに行動するかを決定する時期に来ているのではないのでしょうか？  
(とほほ)

---

[ 募集します! ]

e シンキング投稿募集

eシンキングでは、自発的研究グループ等の研究紹介、講演会等の案内・レポート、研究誌等の発行、政策関係の書籍レビューなど、政策情報に関する投稿をお待ちしています。

「これは、eシンキングの記事になるかな」ということがありましたら、自治人材開発センタ - 政策研究部までお問い合わせください。

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

E-Mail: [seisaku03@hitozukuri.or.jp](mailto:seisaku03@hitozukuri.or.jp)

すてっぷあっぷ講座

「市場化テスト～新しい行政手法への試み～」

新しい行政手法としての市場化テストの可能性、今後の見込みから、現在における国の取組状況の最新情報をお話しいたします。

皆様の参加をお待ちしております。

日時 平成17年8月12日(金) 13:30～16:15

会場 川口総合文化センター・リリア(川口駅西口正面) 11階大会議室

講師 規制改革・民間開放推進会議 専門委員 美原 融 氏

内閣府 市場化テスト推進室職員

締切 平成17年7月25日(月) e-mail又はFAX

詳しくは、こちらから(申込様式もあります)

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/06/H1701tirasi.htm>

---

[ 政策研究の紹介 ]

政策課題共同研究が始まりました。

当センターでは、自治体が直面する共通課題に対応するため、県と市町村等の職員が共同で調査研究を行う「政策課題共同研究」を行っております。

今年度は、富士見市から提案をいただいた「これからの行政経営を支える人材マネジメント・組織体系」、草加市職員から提案をいただいた「災害協定」を考える～自治体間の協力体制をめざして～、埼玉県職員から提案をいただいた「自治体病院における改正病院会計準則の導入とその経営管理への応用」の3つの研究を行います。

6月末から7月にかけて、それぞれの研究会がスタートし、これから8か月程度かけて研究を行っていきます。

年度末には、報告書をお届けし、来年度には発表会で成果報告ができますよう頑張っていますのでご期待ください。

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/01kenkyu/theme/H17.htm>

---

[ 私の選んだこの1冊 ]

ニート：フリーターでもなく失業者でもなく

玄田有史、曲沼美恵 著 / 幻冬舎

ニートは働こうとしていないし、学校にも通っていない。仕事につくための専門的な訓練も受けていない。英語の“Not in Education, Employment, or Training”の頭文字（NEET）からニートと呼ばれる。これに対し、失業者は同じ無業でも同時に仕事を探しており、フリーターはアルバイトやパートタイムという形で仕事をしている。ニートは職につこうとする希望すら失ってしまった無業者のことである。

本書はまず、日本版「ニート」の実像を、厚生労働省の委託調査結果（2003年）やニート個人への取材から紹介している。ニートが求職活動をしてこなかった理由として、最も多いのが、「人づきあいなど会社生活をうまくやっていた自信がない」（43.1%）であり、巷でよく指摘される「自分の能力・適性がわからないから」等の理由よりも多く、興味深かった。また、「ニートの6割が仕事をしていないことに焦りを感じている」という。

続いて、兵庫県及び富山県の取組みが紹介されているが、これは全中学2年生を対象に5日間の職場体験を行うというもの。この事業は、職業意識の啓発よりも、「自分でも努力すれば何とかなる」という実感（自己効力感、自己有用感）を得させることに主眼をおき、学校、地域（事業所）、家庭が一丸となって事業に取り組む姿が印象的だった。

これらの調査から、ニートには、働く意欲の弱い者もいるが、それ以上に働きたくても働けない若者が大勢いるのだということを知った。1990年代後半以降の厳しい就職環境や教育問題、家庭環境等が複雑に絡み合い、ニート増加の原因や解決策は一般論では答えようがないと著者は言う。最終章のタイトルは「誰もがニートになるかもしれない」である。実際本書を読めばこの感は強くなる。ニートのことを自分のこととして「わからないけれど、わかりたい」と思い続け、解決策を探っていくことが重要であると感じた。（M）

---

[ みてきたゾウ・つたえるゾウ！！ ]

第100回研修管理研究会（財団法人公務研修協議会主催・人事院後援）  
（平成17年6月3日（金）午前10時から午後4時 メルパルクTOKYO）

この研究会は、午前中は講演、午後は分科会（基調講義及び研究討議）の2部構成で行われた。

午前中は、「虚妄の成果主義」の著作で知られる高橋伸夫東京大学教授により、「成果主義の崩壊 - 日本型年功制のススメ - 」のテーマで講演が行われた。

講演の概要は次のとおりである。

## 1 成果主義について

(1) 日本の企業は、「年功制が崩壊して成果主義に移行」ということが盛んに言われていたが、昨年、成果主義導入の間違いを認める動きがあった。

(2) 成果主義の何が問題となったのか。

大多数の人には差を付けること自体が徒労

主観評価によると、エース級職員は誰が見てもエースだし、ダメ社員は誰が見てもダメ社員である。エースとダメ社員を除いたその他大勢（グレーゾーン）については、評価の差がもともと付けられない。にもかかわらず、客観的評価によってグレーゾーン職員に無理に差を付けたため、評価に対する不満が続出した。差がない人には、差を付けなければよい。

### 成果主義の失敗

事前に設定した目標の達成度で人を評価すると、予測できないクレームが発生しても、だれもクレーム処理しなくなり、迅速にクレーム対応しなかったことが会社の評判を悪くする。さらに、成果主義ではリーダーしかAが付かないため、トラブルシューター（火消し役）のような人は評価されず、みんながピッチャーをやりたがるようになる。

### 年功序列ではなかった「日本型年功制」

日本型年功制は、ある仕事で成功すると、次ではもっと大きな仕事（予算及び人員）を任されるようになるシステムであり、本質的に給料で報いるシステムではなく、次の仕事の内容で報いるシステムである。

高橋伸夫氏の講演は、具体例が豊富でわかりやすく、また、氏の情熱的な語り口から、「そうか、それは、もっともだ。」と納得してしまうような、強い説得力があった。（襟裳岬）

国際フォーラム「日本の進むべき道」(日本21世紀ビジョン発表記念)  
(平成17年5月30日(月)午後2時から午後4時半 ホテルオークラ)

内閣府経済社会総合研究所が開催した国際フォーラム「日本の進むべき道」に参加しました。このフォーラムは、現在進められている構造改革後に訪れると予想される、あるべき日本の未来像を描いた「日本21世紀ビジョン」の発表記念に開催されたものです。

最初に行われた「日本21世紀ビジョン」の説明では、現在の状態を放置し、改革を進めないでいた場合に迎える「避けるべきシナリオ」を示した後、「2030年に目指すべき3つの将来像」(開かれた文化創造国家「時持ち」が楽しむ「健康寿命80歳」豊かな「公」・小さな「官」)を指し示し、その将来像に達するための行動について説明がありました。

その後、日本21世紀ビジョンを策定した香西泰氏をはじめとする専門調査会委員等が参加したパネルディスカッションでは、豊かな「公」・小さな「官」を実現するには、官から民への流れを加速させ、「小さくて効率的な政府」を築くべきであり、そのためには「市場化テスト」などの手段を用い規制改革・民間開放を、更に進めるべきである旨の発言が多くなされました。

フォーラムの締め括りには、竹中経済財政政策担当大臣が登壇され、「改革の先に見えるもの＝ピク・ピクチャー」を指し示し、現在進めている構造改革が最終的に何をもたらすかを、提示することの重要性を説かれました。

日本を取り巻く諸問題を分析し、シナリオを描き、目指すべき理想の将来像を掲げ、その実現策をわかりやすく解説したこのビジョンは、地方自治体の政策形成を考える上でも、非常に参考になるものでした。(K)

---

#### [ 編集後記 ]

サマータム制度の導入が検討されている昨今、早朝の時間を有効に使おうという「朝型生活」が注目されている。出勤前にジムでひと汗かいたり、コーヒーショップで読書や仕事の資料に目を通すなど、その様子は人様々。もちろん、始業時刻よりもかなり早い時間に出勤し、誰もいない職場でメールをチェックしたり、仕事の構想を練る人もいる。そんな朝型生活に切り替えられたら、どれほど充実した1日が送れることだろうか…。悲しいことに、今日も朝型生活を夢見ながら、目覚まし時計のベルを止めて、再び心地よい眠りについてしまう自分がいる。(ISO)

---

#### [ e シンキング ]

ご意見・掲載希望

[ 政策研究の紹介 ] [ 私の選んだこの1冊 ] のコーナーや、セミナー等の参加レポートを募集しています。是非下記まで、御連絡ください。

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合

自治人材開発センター 政策研究担当（石田、江森）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2 - 24 - 1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/>

E-Mail: [seisaku03@hitozukuri.or.jp](mailto:seisaku03@hitozukuri.or.jp)